

ひょうご 職親会だより

2003.1 第12号

目次

特集 平成14年度職親・社会復帰研修会

- IN 豊岡（第1回）
テーマ：地域の精神保健福祉関係者集まれ～ P.1～
- IN 加古川（第2回）
テーマ：みんなで就労体験しようよ～ P.4～
～情報コーナー～

今回は、昨年に引き続き当事者を主体にした研修会を2ヶ所に増やして実施。その研修会の報告特集です。加古川地区ではステップ研修と位置づけ、今回は実際の就労準備体験を通じ社会適応訓練事業が就労準備支援の1つとなる内容で実施しました。

IN 2002.12.13～14 豊岡（第1回）

地域の精神保健福祉関係者集まれ

今回地域交流会の2ヶ所目として豊岡健康福祉事務所管内において、初めて実施しました。

当事者や家族はもちろんのこと、管内の精神保健福祉関係者が一同に集まり総勢43人の参加がありました。今回は「地域のみんな集まって…もっともっと社会適応訓練事業のこと知って…」をテーマに…

〈プログラム〉

- 社会適応訓練事業の現状報告
- 社会適応訓練事業を通じて……現場からの声……
 - * 訓練生の立場より
 - * 協力事業所の立場より
 - * 家族の立場より
 - * 労働の立場より：豊岡公共職業安定所
 - * 市町の立場より：豊岡市福祉事務所
- 懇親タイム

訓練生の立場より

僕が発病したのは24歳の時でした。NTTに勤めていましたが、課長から「将来は中間管理職になれると云う、三重県の鈴鹿にある学園に行ってみないか?」と言われ試験を受けて、大阪で3番目の成績で合格して学園に行くことになりました。しかし人間関係に悩み、5月のGWに田舎に帰ろうとした時に「町中の人々が僕のことを噂している」という幻聴に苦しまされ、思わず教官に電話して、病院に連れて行って貰いました。注射を打たれて車内で寝てしまいその日は宿舎で次の日の朝まで寝ていました。GWも終わって、すぐ豊岡病院に行き精神科を受診しました。僕の病名は「統合失調症」と診断されました。その後は1年働いたら1年休職ということが3回続き、最後はデイケアのスタッフや先生と話し合いNTTを退職しました。僕は前に述べた理由で発病しましたが、失恋等いろいろなケースで発病した人たちもいると思います。

そして僕は2年程デイケアに在籍しました。僕の父親の知人が経営している事業所で、社会適応訓練事業を利用させて貰いたいと父が交渉してくれて開始となりました。平成6年10月から始まりました。最初は2時間から始めました。最初は2時間でもしんどかった。でも、なんぼしんどくても休まずに行っていました。訓練時間も30分延ばして2時間30分になり、それから3時間になり最高で6時間30分まで延びました。その頃は社長にも高く評価してもらいましたが、その後は訓練時間も減ってゆき、平成12年頃からは3時間しか働けなくなり、社長の評価も下向きになってゆきました。でも、デイケアのスタッフや保健師さんや主治医の人たちとも相談しながら何とか9年間社会適応訓練事業を辞めずにこられたことは自分でも不思議に思います。この9年間で学んだことも多く有ります。今では訓練時間こそ減りましたが、人間関係や精神が少しづつ強くなった様に思います。それに精神がNTTで働いていた時よりもタフになったように思います。

・・・・・・・・・・中 略・・・・・・・・・・

社会適応訓練事業はもちろん遊ぶ所ではないので、指示があれば仕事をしなければいけません。時に他の従業員の人から「君はいいなあ～ノルマもなく、気楽そうで」とよく言われます。そんな言葉を聞く度に、僕は「やっぱり、この世の中には精神病の事が一般の人には理解されないんだあ」と思います。この点はとても辛いです。

また、僕はよく訓練を休みます。でも、決してする休みや怠け心が出て休んだことは無いのです。僕にはまだ大きな波が有り、調子のいいときには訓練も休まずに行けるのですが、調子を崩し不眠であったり、うつであったりして仕事に行きたくても行けないのです。他の人が怠け者と言います。でも、僕としては怠けて休んでいるのではないのです。『病気を治したい』・『人並みに働きたい』と、いつも思っているんですが、なかなか自分の思うようにならないのです。



協力事業主(職親)の立場より

私は10年程前から竹野町で小さな機械加工工場を経営しております。それ以前は、豊岡市内のコンピュータ関連装置のメーカーにありまして、製造や技術の担当役員として勤めて参りました。17年前に交通事故に遭い半年間豊岡病院に入院しました。この間心臓や胃などの大手術を4～5回受け九死に一生を得ました。術後の後遺症は勿論あり辛い思いもしております。私も身体障害者なのです。こうした辛さは他の人にはなかなか分かってもらえません。その原因に対し恨んだり悔やんでいても自分の人生が意義あるものになりません。現実のあるがままの自分を自分で受け入れてこれからどう生きるか…が大切で、自分の力(制約された)とうまく付き合って人生を楽しめるものにしてゆくことが大切なのではないかと考えることにしました。

ところで、社会適応訓練事業の協力事業所を受けて5年程になり、この間2名の方のお世話をさせて頂きました。この事業は精神障害者の社会復帰を目指す訓練であり、訓練生の自立を目指す、自立の範囲を拡大するという他にありません。精神障害者がそれぞれ程度の差があっても、持てる能力を発揮して社会に参加することの意義は大なるものであると思います。障害者が出来る自立をすること、本人にとっても人生の中での達成感やたのしみという充実感は人生を豊かにするもので、その援助は周囲や社会あるいは行政の力で行うのは当然のことと思います。

訓練生へ

ひとこと

仕事・訓練に関する基本編

精神障害ということで、殆ど周囲のお膳立ての中で生活していませんか？仕事をするという事は、自分で準備から後片付けまで行えることが重要です。

- 1) 安全作業をする。服装・姿勢・周囲の整理・心構え
…特に休日明けの日はペースが乱れ事故が起こり易い→休日の過ごし方を工夫する。
- 2) 作業手順を守る。指導者に教えられた手順を繰り返す。
…作業終了後、製品の不都合が起きた時にその原因がわからなくなることがある。
- 3) 作業速度
…製品やサービスには値段がある。いくら時間を費やしても良いと言うわけではない。訓練を通して標準時間に近づける。訓練を繰り返す事で自分のペースをつかむ。

職場内の対人関係編

- 1) 挨拶をする
…社会生活を送る上では、必ず他の人との関わりが必要です。相手に自分の存在を示す事が第一歩ですが、訓練生はどちらかと云えばモノを云う事が苦手の様ですが…一度大きな声で言ってしまうと、その後は楽に言えるようになります。時に相手から返事が返って来ない時があっても、その事はあまり気にせず挨拶を続けて下さい。いつか必ず相手が応じてくれる様になります。
- 2) お礼を言う
…職場の中では、休憩時間にお茶を入れたり食器を洗ったり等みんなで分担してすることがあります。そうしたことを自分が受けたとき「ありがとうございます」「いただきます」とはっきり声を出して云う事が礼儀です。してもらって当たり前の態度があると、後で変な形ではね返ってくることがあります。
- 3) 出来ることは進んでやろう
…お茶入れ・掃除等皆でやる事で自分で出来ることは皆の為に進んで分担して実行する。それで相互の仲間意識が生まれ、対人関係が円滑になります。

家族へ

ひとこと

社会適応訓練事業は障害者の自立の拡大が目的です。これから先の本人の人生を考える時、色々な心配があると思います。本人がどれだけ自立を拡大出来るかが何より大切です。

これまで病気回復が優先し、殆ど生活のお膳立てをされていたのではないのでしょうか？今は身の回りの事は本人で出来るだけやらせるようにさせては如何でしょうか？自立であり、その事が生活の知恵を生み将来起こる種々の問題を解決することが養えると思います。

関係行政機関へ

ひとこと

- 1) 社会適応訓練事業は意義ある事業ですから、出来る限りの継続をお願いします。
- 2) 雇用に向け、もっと活用しやすい助成を検討して貰いたい。

家族の立場より

現在、娘が社会適応訓練事業を利用して〇〇事業所で受け入れてもらっています。娘は大学卒業後、臨時教員をしながら働きましたがなかなか続きません。民間企業にも勤めましたがそれも続きませんでした。病気発病後はその娘にも厳しく当たることも多く、今では親として反省することがとても多かったと思っています。私としては娘が良くなる事だけを思ってやってきたつもりだったが…

数年前、保健所の保健師さんの積極的な働きかけで、社会適応訓練事業について教えて貰い娘が通う

ことになりました。職親である〇〇事業所さんには本当にお世話になってばかりです。この場を借りてお礼を言いたい。親としてただただ「娘が良くなってくれることだけを思っています」

豊岡公共職業安定所の立場より

主な業務

- * 職業相談・職業評価 ← 他の地域の求人情報を得ることも可能
- * 求人票の公開（検索） ← コンピューター検索で自由に検索可能

現状報告（障害者の職業紹介の状況）

- * 雇用状況が悪い中で、一般求職者の雇用も非常に困難になってきている。
- * 精神障害者が雇用率にカウントされない状況にある。
- * 障害開示の上の求職であれば障害者相談窓口を利用して下さい。非開示であれば一般窓口を利用して下さい。

兵庫障害者職業センターの事業紹介

職業評価・職業準備訓練・ジョブコーチ制度・職場適応訓練 等

豊岡市福祉事務所の立場より

今年度より、精神保健福祉の法的事務が県より市町に移譲されました。通院医療費公費負担・精神保健福祉手帳の申請窓口を担当しております。これまで保健所が窓口であった為に精神障害者と接する機会が殆ど無かった状況でした。豊岡市も事務移譲に伴い保健師を1人福祉へ配置して対応しております。その他の福祉サービスの中で、ホームヘルプサービスを1名実施しております。市広報等で周知はしておりますが、現状は窓口に来所される人が少ないのが現状です。サービスは不十分ですが「一緒に相談にのってゆきます」是非、足を運んでください。



IN 2002.12.16 加古川 (第2回)

みんなで就労準備体験してみようよ

昨年度は加古川健康福祉事務所管内の精神保健福祉関係者が一同に集まって交流会を開催。それを踏まえて2回目となる今回は「就労準備体験」をテーマに…

〈プログラム〉

- 地域の情報提供（加古川ハローワーク、加古川障害者就業・生活支援センター）
- 報告：社会適応訓練事業を利用したグループ就労訓練の試み
- 体験タイム（履歴書を書いてみよう・面接体験してみよう）



加古川公共職業安定所の立場より

総括職業指導官 井上博文氏

平成14年春「障害者雇用促進法」の一部が改正された。

現状報告

- ①障害者雇用率の算定方式の見直し
 - *特例子会社も含めた企業グループでの算定が可能
 - *軽減措置である除外職員や除外率の廃止に向けて段階的に縮小
- ②総合的支援策の充実
 - *就業・生活支援センターにおける支援事業の創設
 - *職場適応援助者（ジョブコーチ）←お問い合わせは兵庫障害者職業センターへ

労働＝仕事をする

とは、労働時間が週20時間以上可能である（雇用就労可）

履歴書の書き方

- 黒の万年筆・ボールペンを使用
- くずさず丁寧に記入する
- 写真は3ヶ月以内のもの（プリクラ不可）
- 履歴は中学卒業年次から記入し1年以上の経験も勤務として記入
- 動機は大事なPRポイント

面接の受け方のポイント

- 服装は清潔なものを
- 時間厳守
- 言葉遣いは重要なポイント
- 重要なことは「本人のやる気」

加古川障害者就業・生活支援センターの立場より

就労担当者 後藤・小松氏

就労意欲がある方で、センター支援を受けることにより雇用就労支援が可能と見込まれる方が利用出来る。費用は無料で、いつでも相談可能であるが、その前に職安（専門援助部門）での職業相談を受けることを勧めている。これまで知的に障害を持った方の関わりを通じて、いろいろな形の就労があると感じている。ハローワークの制度に載らない状況にあっても一緒に相談にのって行きたい。

ジョブカウンセラーの立場より

神戸ハローワーク 貞丸 けい子氏

誰でも仕事に就いてお金が欲しいなァ〜と考えるのは当然。そんな時精神の病気を持っているからって足踏みしていませんか？ そんな時1人で悩まないで……さァ

働きたい…と思ったら

- 準備段階**
- ◎自分で服薬・通院等の管理ができる
 - ◎主治医に働く事の理解・協力を得ておく
 - ◎身辺自立がほぼ可能である（生活リズムが一定・清潔保持 等）

第1段階 障害開示・非開示 どちらで行くのかを検討しておく

第2段階

開示
(要精神保健福祉手帳)

非開示

第3段階

障害者相談窓口へ
求職者登録へ

一般相談窓口へ
求職者登録へ

要主治医の意見書・求職者登録の登録削除時は申し出て下さい

求職者登録の有効期限は翌々月末まで

1番重要なポイント

家族や相談担当者等へも相談しながら…
働きたいという意志は本当にあなた自身の考えですか？

障害の開示をするか？しないか？のメリット・デメリットは？？？（例）

	開 示	非 開 示
メリット	必要以上に悩まないで済む （履歴書記入時や面接時に） つじつま合わせする必要がない 通院日を確保しやすい 職安や作業所等の支援を受け易い	病気の話をしなくて済む 病気の人として見られない
デメリット	障害者としての採用枠が少ない 賃金に幅がある可能性あり 等	通院や服薬時に余分な気を使う必要がある 無理な仕事も引き受けないといけなくなる

グループによる就労訓練から

訓練生 T 氏

僕は、週3日・1日3時間コンビニ「ローソン」で訓練を始めました。昨年の11月からです。

その前にアルバイトをしたことと言えば97年にコープ神戸食品工場で約1ヶ月間しただけで、それから4年以上何もせずに経っていたので、ローソンが決まって具体的な仕事の内容が解ってくると「リハビリだからそんなに難しいものではないだろう」と楽観的に思っていました。しかし関係機関へ提出する数種類の書類を準備する日を過ぎしながら少し不安がつきまわっていました。ローテーションが組まれ実際に訓練が始まる前に1回、訓練生全員で店の棚の商品を除けて洗浄液をかけて拭いていた時に発作が起きました。僕の病気は「統合失調症」という病気です。幻聴や幻覚は訓練の間無かったのですが、知覚変容発作といって物の見え方が少しぼやけてきてぼやけた対象が意味を持って迫ってくる感じがするというものです。主治医によると強いストレスのもとに置かれたときや疲れた時にそうなるようで20～30分そのままいれば治ってしまいます。そして僕は何をしても他の人よりやや動作が遅いほうであるということです。同じ棚の端から始めた人の誰よりも進み方が遅いことからみても「これで店の人から叱られずにやっていけるかな」と心細くなりました。

………中略………

ヤマビコ挨拶と云って、店長さんが「いらっしゃいませ」・「またお越しくださいませ」と言った後に続いて店内のメンバー達も同じように声を出して云うのですが、中には声を出すのが苦手なメンバーがいたかもしれません。僕は何故か僕は内心好きでした。店長さんから「声が小さいから全員もう少し大きな声を出してほしい」と云われました。訓練が始まってからはとにかく早く店の仕事を覚えてしまいたい気持ちでいましたが…ごみ捨て・商品の補充・店内の掃除等あり、店内の掃除では店長から叱られませんでした。商品の補充では賞味期限の早い商品が後ろの方にも並んでいるのではないかと気になって、ケースと陳列棚の全商品の賞味期限を確認するというのをやりました。他のメンバーの何倍もの時間を費やしてしまいました。今から考えると少し神経質になっていたのではないかと思います。訓練時間の午後2時～5時は僕にとって丁度いい時間帯でした。仕事で失敗して情けなく思う事もたくさんありましたが、店長やオーナーから優しく声をかけて貰ったり、精神保健福祉相談員が時間をとって仕事の様子を聞いて下さった事も助けになりました。



訓練生 H 氏

僕は昨年の11月からローソンで訓練をすることになりました。最初にバグマシーンという床を清掃する機械の使い方を教えて貰いました。僕たちが来るまでは、アルバイト2人で営業していたのであまり床を掃除することが出来なかったようです。僕たちが毎日バグマシーンで床を掃除するようになってからは床がピカピカ光っているので、周りの店の人や会社の上の人には評判が良かったようです。最初このバグマシーンも1人でかけていたのですが、1人で毎日だと大変だと言ってくれたのでとても助かりました。

同じ病気の人ばかりのグループによる就労訓練だったので、お互いに仕事で困っていたら助け合うと云う事が出来たので大変良かったです。それから、僕は午後の部だったので、出勤する時にちょっと早く着きすぎたので駅のベンチで缶コーヒーを飲んでいたら午前メンバーさんに会ったり、午後から一緒に行くメンバーさんに会ったりして、いつの間にか、そこが待ち合わせ場所になってしまいました。駅のベンチで他のメンバーさんの状態はどうかとか、どんな仕事をやっているのかとか、意見交換が出来て大変良かったです。

僕は喫茶店型の作業所でコーヒーを入れたりレジをしていたので、一般のお客さんと接する事がありましたが、

作業所だと失敗しても次のお客さんにはちゃんとしましよと、ある程度失敗が許されていました。ローソンでも社会適応事業訓練と言う事で失敗が許されていたのですが、入ってくるお客さんがわりと忙しいような感じを受けたので少し緊張感がありました。しかしこの緊張感が社会生活をしてゆく上で必要なんだなと改めて感じました。

バグマシーンをかけながら店長さんに続いて「いらっしゃいませ」「こんにちは」とヤマビコ挨拶したり、また商品の補充をしながらヤマビコ挨拶をすることは仕事をする上での心地良い緊張感に包まれて、働いているということを実感できる時間でもありました。

仕事に段々慣れてくると店の人は僕にレジの仕事をやってもらうつもりだったようです。しかし最初の契約が清掃と商品の補充ということだったので困ってしまいました。僕は病院の職員の方に相談しました。さいわいハローワークとこころの健康センターにつながっていたので、こころの健康センターを通して断ることが出来ました。

毎月1回ハローワークでメンバーミーティングを実施していました。今職場で困っていることはないか、身体の調子はどうか等の話し合いがあったので、職場では言い難いことも、このメンバーミーティングで話し合う事が出来たので大変良かったです。僕は「あれは出来ない、これは出来ない」だと思いつつ、「危険を伴わないことで自分の負担にならないことならやっても構わない」と言いました。

あと、店長さんとの思い出なんですが、店長さんに訓練帰りにカラオケに連れて行って貰ったり、雨が降った時に車で駅まで送ってもらったりと大変親切に頂きました。

今短時間のアルバイトをしているのですが、ローソンでの訓練が今の仕事に就く為の体力作りになったのだと思います。

このような機会を与えてくださった関係者の方々、一緒に訓練したメンバーに本当に感謝しています。

援助者 県立精神保健福祉センター 菅原 氏

今回、社会適応訓練事業を活用したグループによる就労訓練、通称「ローソンプロジェクト」を関係機関と一緒に取り組みました。これまでの社会適応訓練事業とは少し違った特徴がいくつかあります。

事前準備

- 協力事業所の登録申込みを受けた相談機関(今回は神戸市こころの健康センター)が将来の就労も見据えてハローワークを巻き込んだ
- ハローワークのジョブカウンセラーが最初から最後まで連携して事業所と交渉した
- メンバー選出の際、複数の機関が集まり条件・訓練内容等とメンバーとのマッチングの調整を行った(参加機関:神戸ハローワーク・神戸市こころの健康センター・県立精神保健福祉センター・県立光風病院・松本病院・御影倶楽部)
- 説明会を設けメンバーにも参加を呼びかけた

訓練期間中

- 個別担当者による相談の継続
- 開始当初は、それぞれの個別担当者が訓練場所である事業所訪問を実施
- 神戸市こころの健康センター・ハローワークが中心となって事業所支援を実施
- グループミーティング(月1回)の開催(訓練生・支援者参加型)



お・も・い

実際の訓練を通して、今まで支援者の側で「無理かな」というふうに、やる前から当事者の過小評価をしてせっかくの芽を摘んでいた部分があったのでは？と反省しました。対人関係が苦手な人達だからと協力事業所にコンビニという業種が合うかな？と感じたものの、短い時間複数のメンバーによる訓練はむしろ、メンバーによくマッチしたように思います。又最初から最後までハローワークが関わったことにより、訓練生も支援者側も「就労」が常に意識でき又労働関係の各種制度の活用方法等の情報を得ることが出来ました。定期的に訓練生・支援者が集まったミーティングは相互の現状や課題が共有出来る場として大変有意義でした。改めて「当事者主体」を再認識しました。

情報コーナー

職場適応援助者事業（ジョブコーチ）による支援事業をご存知ですか？

ジョブコーチ支援とは、障害者の雇い入れや指導にあたって、事業所の体制だけではその対応が難しい場合に、障害者職業センターからジョブコーチを派遣して雇用の安定を目指すものです。

対象となる事業所

ジョブコーチによる支援を必要としている障害者を雇用予定又は雇用中の事業主が対象

【必要要件】

- * 雇用保険・労働災害補償保険・厚生年金保険等に参加し又は同様の職員共済制度を保有
- * 労働基準法・労働安全衛生法に規定されている安全衛生その他の作業条件が整備済み

対象となる障害者

ジョブコーチによる職場での支援が必要な障害者（求職者又は在職者）

具体的支援

【事業主へ】

- * 作業内容・作業工程等の設定
- * 効果的な指導方法
- * 指示・注意の仕方・しかり方・ほめ方等
- * 休憩時間の障害者との交流や家庭との連絡の取り方 等

について助言

【障害者へ】

- * 仕事に適応する為の支援
- * 人間関係や職場でのコミュニケーションを改善する為の支援 等

【家族へ】

- * 障害者の職業生活を支える為の助言 等

支援期間

- * 個別に支援期間を設定しますが、標準は2～3ヶ月です。
- * ジョブコーチによる支援は永続的なものでなく、直接障害者や事業主に支援を行いながら上司や同僚へ適切な支援方法を伝え、ジョブコーチ終了後も職場内で支援が継続されることを目指します。

詳しくは兵庫障害者職業センター

TEL 078-881-6776

兵庫県

精神保健職親会

会員・賛助会員を随時募集しております！

事務局：

〒652-0032 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-29
県立精神保健福祉センター内

TEL: (078) 511-6581

FAX: (078) 511-6585